



水戸市男女平等参画基本条例の啓発と
男女平等参画社会の形成と促進のために

WAVE

第18号

発行日：平成30年6月30日
発行：特定非営利活動法人
M・I・T・O 21
〒310-0851 水戸市千波508-34
発行責任者：黒澤輝子

第10回通常総会を迎えて

理事長 黒澤 輝子



今年の春は早く訪れ、4月5月は新緑が美しく初夏を思わせるほど暑い日もあり、梅雨入りになってからは涼しく、身体の不調を感じる方も少なくないようです。日頃より市関係機関の皆様、会員の皆様にはご支援ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて本法人は平成20年5月に特定非営利活動法人として、男女平等参画社会の形成の促進を図る活動を中心に申請し、12月に認証を受けて社会的責任を持つ団体としてスタートして、今年は10年目になります。

平成21年5月に設立記念講演会「そうだったのか！講演会」として池上彰氏(NHKキャスターで「週刊子どもニュース」の時事問題をお父さん役で子どもと向けたニュース解説が好評の方)を講師に開催したのが昨日のことのようです。「世界地図はひとつではない」をサブテーマに普段何気なく見ている世界地図を何枚も広げ、取材先で体験した国のその時々、時代やその時の政府の方針で地図の中心、自国の首都や国境が違っていることや、「中東」と言われる地域の民族や領土問題を抱える国は難問が多いこと。そして地球温暖化の影響をあげ、異常気象や食料不足が懸念され、新たな地域紛争を引き起こす原因になると話されたことなどを思い出し、衛星から撮った写真を合成した世界地図を掲げ、「宇宙から見た地球には国境線はなく、日本は、緑一色の美しい島なのです。」と言われたことなどが鮮明に浮かびます。

当時より、ヒューマンライフシンポジウムを毎年事業受託して、著名な方をお招きしての講演会を企画運営することは、一人ひとりが活気に満ちて力強い意思の積み重ねであり、着実な歩みを続けてきたことに感慨深いです。今年も9月の男女平等参画推進月間事業の中で、持てる力を存分に発揮していただきたく思っております。

水戸市では明治維新150年、水戸市役所本庁舎も12月には完成し、来年は市制130年の節目、私たちは次世代の若者が希望にあふれる、未来に躍動する魁のまち・水戸の実現に力を尽くしていく、それが使命と思うところです。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

= 目次 =

第10回通常総会を迎えるにあたって1頁
カナダで見聞きしたGender Equality	に参加して.....2頁

追悼 静間敏子氏を偲んで	かがやきの仲間を知る会.....3頁
リレーエッセイ	気になる本棚/編集後記4頁

「カナダで見聞きしたGender Equalityに参加して」



初代水戸市男女共同参画推進室長の青山敦子さんを囲んでの茶話会!!
と聞き胸を躍らせ参加させて頂きました。青山さんは水戸市の男女平等行政の
当初からの牽引者で「日本女性会議2001みと」開催時の行政側のまとめ役
であり、私たちの言わば同志なのです。

平成 13 年当時はバブルが崩壊し官民とも厳しい時代背景の中での開催でしたが、3,326 人の全国からの熱心な参加者にお越し頂き、水戸の実行委員会のエネルギーが行政と議会の賛同を取り付け「日本女性会議 2001 みと」を手作りで開催したのです。市民の提案で策定した自慢の「水戸市男女平等参画基本条例」の施行日を開会初日の 9 月 28 日にし、2001 みと宣言を採択することで、全国に水戸から発信することが出来たのです。

素晴らしい活躍の青山さんに女性行政職のトップになってもらえたと期待してたら、相愛の夫とのかねてからの夢であったカナダでの生活のために、なんと職を辞されプリンスエドワード島へ渡りご夫妻でペンションを始めたのでした。現地の方々に助けられながらも持ち前のガッツと模範のパートナーシップで幾多の困難？？？を乗り越えながら元気に楽しい想い出づくりをされている様子を前回の茶話会で聴かせて頂いて。。。一段落したら妻と！なんて思ってたのですが、今度はペンションをお譲りする良い縁が出来たとかで10年を期に手放期に手放してバンクーバーに転居されたというのです。またまたびっくり！です。

茶話会は簡単な自己紹介と近況、自然を満喫出来るプリンスエドワード島の田舎暮らしと、100カ国の人人が住む多人種・多文化のバンクーバーの違いから始まり、この10年間で出会った方々との数々の出来事など楽しい話しが沢山でした。この件については、Key & Apple の通信（清志＆敦子）や青山敦子さんとプリンスエドワード島ブライトン・ハウス等で検索して後でブログをご覧頂けると良いかと思います。また男女平等やジェンダーを身近に感じたカナダの状況（同一労働同一賃金：男女、年齢関係なし、昇進は男女差無く能力次第と、日本の男女格差の状況（ジェンダーギャップ指数では世界144カ国中で日本は昨年110位より下がり今年は114位、カナダは徐々にランクを上げて16位に位置する）、カナダは高福祉、高負担なのか？（医療費と教育費：無料、国民年金：皆支給、消費税15%でも日用品は無税、年収200万円以下の人には年間5万円位の還付がある）等々貴重な話を伺いました。ジェンダーギャップの順位が上がりつつあるのはピエール・トルドー元首相がフェミニストを意識して育てた二世のジャスティン・トルドー現首相が高人気で2015年から大臣の半分を女性にしたことが大きな要因の一つとの話もあり「政治に無関心であってはならない！」と改めて考えさせられました。



青川敦子さん

同世代？の青山さんの気負うことのない自然体でいて説得力のある話を聞いていた内に、男女平等参画基本条例づくりのためにみんなで奮闘していた頃のことや「日本女性会議 2001 みと」での講演や分科会等の行事。各地からの参加者の方々より、『日本女性会議は勿論のこと「水戸市男女平等参画基本条例」、「2001 みと宣言」もみんな手作りですごく良かった。手本にさせて頂きます！との賞賛の言葉。そして実行委員として燃えた有志が集まり「日本女性会議 2001 みと宣言」

と「水戸市男女平等参画基本条例」を実効性のあるものとしていくために翌年同日にポスト日本女性会議2001みとを設立。「平等・創造・平和」の理念のもとに、9月の推進月間にヒューマンライフシンポジウムを開催しながら、男女平等参画社会の形成の促進そのものを目的としたNPO法人M・I・T・O 2 1を設立し今活動中で10周年を迎えること・・・想い出は尽きません。10年を期に私たち自らが原点回帰しなければ!と自問自答の良い機会を頂きました。(野村直実 H30.1.31)

(野村眞実 H30. 1. 31)

追 悼



私たち MITO21 の顧問としてご指導いただいていた、静間敏子さんが急逝されて 1 年が過ぎました。未だに会議等でもお姿が見えないことが信じがたく、今日はどうなさったのかしらなどと勘違いしてしまいます。伺うところによりますと、数日前までご自身の所属団体の総会の準備をされていらしたとのこと、突然の訃報に私たちも耳を疑いました。

あっという間の 1 年でしたが、「静間さんがいらしたら…」と思ったことが幾たびか、あれもこれももっと伺っておけば良かったと本当に後悔ばかりです。

「水戸の女性史をつくる会」でも、女性史そのものである静間さん不在は大きな痛手になっています。昨年今年と「日本女性会議 2001 みと」を検証する企画を計画していますが、実行委員長として、200 人を超える実行委員・ボランティアをまとめ、3300 人の全国からの参加者に満足いただき大会を成功裏に導いた、静間さんのお力を再認識しているところです。

そのときの大会宣言を活動の基本に発足したのが私たち NPO 法人 MITO21 ですが、法人化するに当たっても的確なご助言をいただき、発足後は顧問としてだけでなく一員として会を支えていただいたこと感謝しております。

噛みしめるように、諭すように、お話しくださったひと言ひと言が、私の現在の活動の基本となり、糧となっております。

静間さん、私たち後輩にたくさんの宝物を残してくださいありがとうございました。

お別れして 1 周年に当たり、改めて心から哀悼と感謝を申し上げます。 兼子千恵子

社会貢献 私たちにできること”かがやき”の仲間を知る会 平成 30 年 6 月 21 日

今春、国際ソロプチミスト水戸の皆さんのが補助金をあてにせず、自己資金の運用で知的障害を持つ子どもたちの働く場提供と居場所作り、グループホーム運営をしている社会福祉法人友幸会の活動に支援金を贈呈された話を聞きして水戸市下大野町にある障害福祉サービス事業所「かがやき」を訪問しました。梅雨のさなかで周囲は水田地帯、青々と苗が風にゆれ、さわやかな風が通る自然あふれる場所でした。

平成 15 年 4 月に茨城大学附属養護学校卒業の子どもたちの父兄が子どもたちの将来を考え一人ひとりが生き生きと活躍できる社会環境を整え、その子どもたちに合った作業に就けるよう、豊かな人間関係の築けるところ、利用する方や職員、そこに関わる全ての人たちが、自分らしさを失わず心にゆとりを持ち、作業を通じた生活の中で『かがやき』が感じられる「明日も行きたい!」と思えるところを目指しているとのこと。コーヒーの焙煎販売、パン・菓子製造、機織り(かがやき織)、軽作業(部品の袋入れやラベル張りなど) 石窯で焼いたパンはかがやきのカフェや、水戸中央病院の売店でも販売しており、国産小麦と白神こだま酵母を使った無添加のパン、コーヒーはすべて自家焙煎でブレンドされ、ブレンドも数種類あり、カフェでコーヒータイムを楽しめます。施設長からは「お近くにおいで際は、お気軽にお寄り下さい。」とおっしゃっておられました。



別棟で機織りの工房があり、思い思いの色使いで織った布地で帽子やバック、ベストを展示販売しています。子どもたちが自立して生活できるようグループホームも併設しており、法人の野村代表と浅野施設長の思いが実現され、安心した暮らしをしている子ども(青年)の輝いた姿とすばらしい仲間に感動した見学会でした。私たちも側面で応援していきたいです。(稔崎記)

かがやき織の作業実演見学

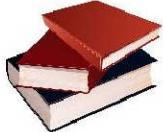
～リレーエッセイ～ 「雑感」

田山 和子

今を生きる誰もがこれから社会や私たちの暮らしがより良い方向へ歩めるよう願っている中、5月に『政治的分野における男女共同参画推進法=推進法』が成立したことに期待感が膨らみました。これは罰則規定(強制力)のない理念法ではありますが、国会と地方議会の議員選挙での「候補者の男女比の出来る限りの均等を目指す」とあります。たとえ努力義務であってもこの法律は社会が変わるものになる気がしてなりません。日本の女性議員数は長い間世界水準から見て最も低く、社会の根幹や仕組みを決定する政治が男性中心に動いてきたことがわかります。この「推進法」でこれから作られるあらゆる政策に、より複眼的視点や多角的思考が入れば社会に変化を生み出すでしょうし、閉塞感や手詰まり感を軽減してくれるに違いありません。

誰もが生きていきやすい社会を望んでいるのですから…。「種は蒔かれた」と多くの人が歓迎しているのではないでしょうか。男女共同参画は男性の仕事が奪われるのではという見方をする人もいますが裏返せばこれまで能力のある女性が締め出されていたとも言えるのです。

人の意識が変わるには時間がかかりますがこの法律が少しずつ効いてくることを願います。具体的には、これからは議員を志す女性候補者を地域から探すことやバックアップする人も必要になります。そして地盤、看板、カバンと言われる選挙方式そのものも今まで良いのかを皆で考えるきっかけにしたいものです。



気になる本棚

「女性の活躍」って 社会学者・詩人水無田気流（みなした・きりう）70年生・国学院大教

★「仕事も家庭も理想と現実」を読み解く書籍を社会学者の記事から紹介したい。前号の続き

・仕事と家庭は両立できない?「女性が輝く社会」のウソとホント-アン=マリー・スローター〈著〉では育児や介護の問題は、男女を問わず「仕事と家庭の両方の責任を持つ人たちがキャリアの面で妥協を強いられ、代償を支払って」きたということ。これまで「女性の問題」と矮小化され、解決されなかった。今後は「育児や介護をする人」の問題として再考する必要があるという主張は、超少子高齢化が進め日本にとり、極めて重要と説いている。

日本の事情の違いから「仕事と家族」日本はなぜ働きづらく、産みにくいか一筒淳也〈著〉がお薦めだ。米国とスウェーデンという「女性活躍」のあり方が正反対な国と、日本の比較対照を軸に詳解している。米国のように育児休業制度が未整備な「小さな政府」とスウェーデンのような公的部門で女性雇用が厚い「大きな政府」の性格は対照的だが、共働きしやすい環境が整備され、女性の社会的地位向上と高い出生率の維持が両立できた。他方日本やドイツは男性稼ぎ手モデルを維持したことが、少子化を進めたという。日本企業での働き方には、「勤務地・職務内容・労働時間」の「3つの無限定性」があり、家庭責任との両立は不可能。さらに、家族の相互扶助に期待するあり方はケアワーク負担の重さから家族をつぶしかねない。家族が担ってきた負担の外部化により、介護不安などを軽減する効果が見込まれるという。これまでの紹介図書に共通するのは「女性活躍」は、女性だけの問題ではなく、就労とケアワーク再編の必要性を訴えている点であり「働き方改革」というならば「暮らし方改革」も同様に必要なのである。(朝日新聞平成29.11.5.抜粋)

編集後記:NPO法人として活動を始めて10年目、通常総会で今年度の事業計画を承認いただき、30年度中に10周年の記念事業を行います。毎年企画運営しているヒューマンライフシンポジウムは9月1日土曜日に開催が決定し、準備が始まっています。日本フェンシング協会会長の太田雄貴氏の講演を予定しており、男女の課題と次世代に向けたオリ・パラの国際対応に社会の中は大きく変化が進んでいます。MITO21も若返りを目指しましょう。事務局